



Mais Brasil★

平成24年度 ブラジル通信
9月3日(月)～9月9日(日)
No. 1
発行者：宮本 朋子



ブラジルをもっと知りたい、もっと感じたい

ブラジル・パラナ州との教育交流を進め、双方の教育環境向上を図るため、今年も地球の裏側にやってきました。私にとって3度目の訪伯は、クリチバ市からスタートしました。クリチバ市は、パラナ州の州都であり、人口約180万人の大都市です。また、サンパウロに次いで日系人が多く住む都市でもあります。

2008年の世界的経済危機をきっかけに、この4年間で日本に住む約10万人の日系ブラジル人が帰国しています。その実態を把握するため、昨年度の訪問では、帰国児童生徒と面談したり、実態把握アンケートを実施したりしました。

今回の訪問では、そのアンケート結果をもとに学校側の考えや対応の仕方を調査し、さらに帰国児童生徒の声を集め、支援方法を考えていきたいと思えます。

豊橋市出身の女の子に会いました

ブラジルの学校制度は、就学前教育(＝保育園、幼稚園)、初等教育9年(日本でいう小中学校)、中等教育3年(＝高校)、高等教育(＝大学)となっています。就学前教育と初等教育の1年生～5年生は、市が管轄し、初等教育の6年生～9年生と中等教育を州が管轄しています。今回、帰国児童生徒が在籍する2つの州立学校(6年生～9年生と高校生が学習している)を訪問しました。



Julia Wanderley 州立学校では、9人の帰国児童生徒と面談しました。そのほとんどは、小学校に入る前に帰国していたため、また日本でブラジル人学校に通っていたため、問題を抱えていると感じられる人はいませんでした。学校側も友達が支援していたため、配慮はしなかったそうです。

一方、São Paulo Apóstolo 州立学校では、3年前に帰国したばかりの豊橋市出身の女の子(高校生)と出会いました。二人は、岩田小と花田小で勉強していたそうで、お世話になった先生の話をしてくれました。帰国後は、ポルトガル語の語彙不足により学習に困ったり、教室がうるさすぎて勉強に集中できないことがあったりと、苦労したそうです。そんな時、いつもシモーニ先生が優しく対応してくれ、とても助かったといいます。先生は、保護者や他の先生、クラスの子たちに、彼女たちの状況を説明し、補習もしてくれました。難しいテストの時は、知り合いにお願いして日本語に翻訳してもらったそうです。このように、現在のパラナ州では、各学校の責任のもと対応しなければならないのです。また、補習も教科のサポートはできても、ポルトガル語会話のサポートがないのも問題だといいます。その上、州政府の方針により、高校での補習は認められていないため、今は補習ができません。今回面談はできませんでしたが、サポートを必要としている豊橋市出身の男の子がもう一人おり、内向的で、全く言葉を発しないため、対応に困っているようでした。

日本の心を感じられる純心学園

クリチバ市の中心街にある純心（じゅんしん）学園を訪問しました。この学園は、ブラジルの幼稚園と日本語学校が併設されている日伯融合型学校です。

幼稚園は、ブラジルのカリキュラムのもと、指導がされていましたが、あいさつや返事の仕方は日本式でした。毎日の集会では、日本の歌を歌っており、まるで日本の幼稚園にいるような感じを受けました。



また、日本語学校は、月・水・金の午前・午後コース、火・木・金のコースがあり、5歳～17歳までの児童生徒に、外国語として日本語を教えていました。現在70名の子どもたちが学習しており、そのほとんどは日系人だそうです。また、毎週金曜日は、日本文化を学習する日となっており、体育、音楽、習字、茶道、日本舞踊、裁縫などのクラブを自由に選択することができます。授業の最後には、掃除指導もされていました。ブラジルでは、清掃員がいるため、学校では掃除の時間がありません。町を歩いていると、ゴミのポイ捨てが目立ち、いつも汚れていると感じます。日本のように、自分たちの生活環境は、自分たちの手できれいにすることが、心の教育にもつながると思いました。



ここでもまた、豊橋の岩田小・豊岡中において学習経験をもつ山脇小百合さんと出会いました。彼女は、17歳で帰国後、純心学園で日本語を教えている教師です。心理学者でもあり、日本に行って勉強したり、働いたりしたいという希望をもっています。日本にいる日系ブラジル人の子どもたちは、言語や文化の違いから適応できず、その言動も勘違いされがちです。そういったとき、彼らの助けになれるのは、日本とブラジルでの学習経験をもつ彼女のような存在であり、これからの社会に必要な人材であると感じました。



日本が大好きな山脇先生

在クリチバ日本国総領事館訪問

今回、山口総領事と話す機会がありました。私の活動内容を説明すると、さらに増えるだろう帰国児童生徒のために、領事館としてできることがあれば協力したい、とのお言葉をいただきました。また、豊橋で研修を受けた5人のブラジルの先生を、パラナ州全体でも活用できるように働きかけてほしい、と力強く話されました。



またまたぶらっとブラジルク・イ・ス♪

クリチバでは、毎日バスを利用して訪問活動をしています。時々、運転手の他に職員が乗っていることがあります。ここで問題！ 彼は一体何をしているのでしょうか？



- ①バスの警備
- ②車内販売
- ③運賃の回収

答え：③（バス内は、回転レバーで前方部と後方部に分かれています。バスの先頭から乗車し、座っている職員に運賃を支払います。そして、回転レバーを通して、後方部の降車扉から降りる仕組みとなっています。混雑しているときは、なかなか回転レバーを通過できなくて、降り損ねて叫んでいる人もいましたよ。）